

アメリカ大学奨学金プログラム

奨学金をもらって
アメリカの大学に
留学しよう!



American Collegiate Scholarship Association

米国大学スカラーシップ協会

「夢」を夢で終わらせない。

「アメリカの大学に行きたい! だけど…」

留学の不安や悩みを解消し、あなたの夢を実現させる。

——それが「アメリカ大学奨学金プログラム」です。——

Index

02 はじめに

03 アメリカの大学基礎知識

06 奨学金プログラム(アカデミック)

08 奨学金プログラム(スポーツ)

10 どんな大学で学べるのだろう?

はじめに

「アメリカ大学奨学金プログラム」をサポートする米国大学スカラーシップ協会とは

「アメリカ大学奨学金プログラム」とは、アメリカの大学へ留学を希望する若者と、返済義務のない奨学金を提供するアメリカの大学とを結びつけるプログラムです。1997年よりスタートし、世界のあらゆる国々の学生が利用してきました。日本では2004年9月より募集を開始。以来、毎年100名以上の留学生を送り出しています。

この活動を推進するのは、米国大学スカラーシップ協会であり、それを運営するのは民間の「IDEA」(本部:米国フロリダ州)です。

奨学金の情報は、ホームページ上に公表されていないものも多く、入学を希望する大学を直接訪問し、その大学から詳しい

話を聞くことの難しい留学生の場合、限られた情報しか得られないのが現状です。全米約4,700校もある大学から、自分に合った大学を選び出し、その大学からスカラーシップを受けることは簡単なことではないでしょう。

米国大学スカラーシップ協会は、大学とのネットワークを活かし、これらの情報を直接大学から収集したり、特別に奨学金を支給して頂けるよう交渉したりしながら、授業料・滞在費・食費の50%以上を支給していただける複数の大学をご紹介します。意欲あふれる日本の若者が、奨学金制度を利用してアメリカへ留学することで、日本人留学生が逞しい国際人に成長できるよう支援します。

まずは、アメリカの大学について知っておこう！



入学は易し、卒業は難し。「自らが学ぶ」ことを重視

アメリカの大学に留学したい！ そう夢見る人はたくさんいるはず。

けれども、一口に大学といっても、数も種類も多く、学びの目的もさまざまです。

しかも、日本の大学とはあらゆる面で大きく異なります。

留学を本気で考えるなら、まずはアメリカの大学についてきちんと理解する必要があります。

ここでは、教育理念や大学の種類、特徴など、4年制大学に関する基礎知識をご紹介します。

アメリカの教育理念

大学とは「学生が主体的に学ぶ場」

アメリカでは、「自らが学ぶ」ことをとても重視しています。大学では、なるべく多様な人材が一堂に会し、さまざまな視点から独自の意見が交わされることによって、学生一人ひとりが自ら新しい英知と真実を見つけていくことをめざしています。したがって、日本の大学にみられるような「教える授ける」という受身的な教育とは異なり、「学生が主体的に学ぶ場」と考えられています。そして、教授には「知識を教える」役割よりも、「学生から新しい何かを引き出し、

発展させる」役割を期待し、学生にはクラス討論や学生生活に「積極的に参加する姿勢」が求められます。学生がクラスの中で発言して自分の考えを相手に提示することは、皆がそれぞれに新しい英知を発見するための「義務」であり「貢献」であると考えられているので、多くのディスカッションが行われます。

さらに、留学生がクラスに加わることで、より国際的な視点に立った意見が交わされるため、在校生すべてにとって、いっそう幅広い教養教育ができると考えられています。それゆえ、アメリカの大学の多くは、世界中から留学生を受け入れることを望んでいます。

大学の種類

大学数は多く、大別すると3種類

アメリカの大学の大きな特徴は、その数の多さです。日本の大学は4年制大学、短期大学、高等専門学校を含めて約1,180校ですが、アメリカには、約4,700校の大学が存在します。このうち4年制大学は公立、私立合わせて約3,000校あり、教育目的・内容の違いから、リベラルアーツカレッジ、総合大学、専門／単科大学に大別することができます。

1) リベラルアーツカレッジ (Liberal Arts Colleges)

アメリカにおいてリベラルアーツカレッジとは、学生が幅広い教養を身につけることに主眼を置き、一般教養課程を主体とした大学のことを指します。アメリカの大学学部課程は、専門的知識を身につけるというよりも「人格形成の場」という理念があり、人文・社会・自然科学を多岐にわたってバランスよく学ぶことで、豊かな教養と人間性、思考力、分析力、論理展開能力、問題解決能力などを育成することをめざしています。その多くは私立の、比較的小規模な大学(学生数500～3,000人)で、静かで豊かな環境を備えた田舎や郊外に全寮制のキャンパスを構えています。

リベラルアーツカレッジで学ぶ利点は、大学院まで併せ持つ大規模な総合大学に比べ、学生に対するケアが行き届いていることです。教授対学生の比率が低く、一クラスの人数が15人前後と少ない上、教授は研究よりも教えることに力を注いでいます。アメリカでは、リベラルアーツカレッジで一般教養を学び、その後、大学院に進学して専門性を高める学生が少なくありません。

2) 総合大学 (Universities and Colleges)

一般的に、カレッジ(College)は比較的小規模で、大学学部や大学院課程の教育に重点を置いています。一方、ユニバーシティ

(University)は研究者養成を目的として設立され、博士課程まで備えており、多彩な専攻分野や学位プログラムを提供しているところが多く見られます。ただし、両者の間にどちらが優れているなどの優劣はなく、むしろ個々の大学によって個性・特色が異なるという点に注目したほうがよいでしょう。大学院課程まで持つ大規模の大学はリサーチ大学とも呼ばれ、教授の下で研究している大学院生が学部課程の授業を行うこともよくあります。

3) 専門／単科大学 (Specialized Colleges)

アメリカには、ビジネス、音楽・アート・ダンスなどの芸術系、建築、工学、看護学などの専門分野の教育を提供している単科大学があります。このような専門／単科大学のうち、芸術・建築系の大学への入学には、個人の能力・技能を示す作品提出やオーディションが義務付けられることがよくあります。

4) 州立大学と私立大学について

日本では、「国公立大学の方が私立大学より授業料が安く、レベルも高い」という印象がありますが、アメリカの州立大学と私立大学の関係ではほとんどこの印象は当てはまりません。州立大学は、もともと家庭の金銭状況に関わらず、教育機会を平等に与えるという目的でつくられているため、州の住民であれば、他州や他国の学生よりも格安で学べるという特徴があります。州立大学の中には、入学の基準を年齢以外にあまり設けておらず、基本的にすべての人に門戸を開いている大学も多く存在します。

州立大学は、州の税金で運営されているため、私立大学のように少人数授業や十分な人員配置が困難な大学が多く存在します。さまざまな出版社が発表しているランキング*やレポートをみると、州立大学に比べ、私立大学のほうがランキングの上位を占めていることが多いのはそのためです。

* P4 4) ランキング参照

次に、アメリカの留学事情を調べてみよう！

大学の特徴

一言でいえば「多様性と柔軟性」

1) 専攻科目の選択について

一般的に、4年制大学では2年次後半から3年次前半で専攻を決定しますが、関連分野で副専攻(Minor)を持ったり、ダブルメジャー(Double Major)で同時に2つの専攻分野を学んだり、両方の分野の知識を深めることで専門性を高めることも可能です。ただし、これらの場合は必要取得単位数が増えます。

また、アメリカの大学では途中で専攻分野を変えることもできます。専攻を変えた場合は、新しい専攻での卒業必要単位を余分に取得しなくてはならないため、卒業が少し延びることがあります。しかし、基本的に学期ごとの卒業が可能なので、必要単位が取得できた学期の終わりには卒業することができます。なお、人気のある専攻を選んだ場合や、適性を要求される専攻に移りたい場合は、必ずしも希望どおりになるとは限らず、一般教養時の成績(GPA)などによって選ばれることがあります。

日本の大学との違い

大学制度そのものが根本的に異なる

1) 入学資格・条件の違い

アメリカの大学には日本の入学選抜試験というものはなく、すべて書類審査で選考されます。まずは、各大学が定めた必要事項・書類を、締切日までに提出しなければなりません。締切日は、大学によりさまざまで、早いところでは前年の11月末に締め切ってしまう大学や、Rolling Admission といって特に締め切りを設けず、随時願書を受け付ける大学など、多岐にわたっています。したがって、アメリカ留学には1年～1年半の準備期間が必要です。また、過去の成績が評価されるため、普段からの地道な勉強努力が問われます。

2) 学期制度

アメリカの大学は、一般に8月下旬から翌年の5月中旬までの9カ月間を1学年(Academic Year)としています。6～8月は夏休み、もしくは夏学期(Summer Session/School)です。1学年間(9カ月間)を2期に分けるのがセメスター(Semester)制で、8月中旬から12月中旬の秋学期と、翌年1月中旬から5月中旬の春学期に分けられます。

日本のように通年制によって学年の終わりに成績がつくシステムとは異なり、アメリカでは各学期が終了するごとにコースが修了し、成績がついて単位を取得するクレジット(単位)制です。このような学期制・クレジット(単位)制により、アメリカの大学では個人の希望に応じた柔軟な計画を立てることができます。たとえば、学期ごとの入学や、取得した単位を持って別の大学へ編入(Transfer)することが可能です。また、一定期間休学して残りの単位を復学後に取得したり、途中で専攻分野を変更したりすることも可能です。さらに、夏学期(Summer Session)を利用したり、各学期により多くの単位を取得したりすることで、4年間で卒業することも可能です。

2) 編入について

アメリカでは、2年制大学から4年制大学へ、あるいは4年制大学から他の4年制大学へ、といった編入学が盛んに行われており、日本の大学からの編入も積極的に受け入れられています。編入を希望する場合は、今まで取得した科目と単位を示す成績証明書に加え、シラバス(Syllabus)といわれる授業の概要を記したものを志望校へ提出して審査を受けます。海外の大学からの編入の場合は、通常WES※という教育機関を通してアメリカの大学の単位に置き換えた上で審査を受け、入学や受け入れ単位数の確定を行います。

編入に関しては、「希望の大学に編入できるとは限らない」「単位が必ずしもスムーズに互換されるとは限らない」「卒業までに余分な時間と金銭的負担がかかる」など、さまざまな課題もあります。

※ WES = World Education Services



3) 文部科学省の不在・単位認定制度

アメリカには日本の文部科学省のような中央で教育を統括する政府機関はありません。大学設立についての規制がゆるいため、比較的容易に大学教育サービスを始めることができます。したがって、教育の質をコントロールするために独自の単位認定制度(Accreditation)が生まれました。この認定制度はあくまでも任意団体による認定で、法律的な規制ではないため、認定団体による認定を受けていない大学も中には存在します。認定団体からの認定を受けていなくても大学と名乗ることは違法ではありませんが、留学を考える場合、留学先大学の認定の有無を確認することが重要です。

4) ランキング

アメリカには大学を比較する共通の指標がないため、日本で大学評価に使われているようなランキング(偏差値)は存在しません。各大学や学部がそれぞれ異なる特徴を持っているため、同じ基準に基づいたランキングが出せないのが現状です。したがって、アメリカの大学を選ぶ際には、さまざまな参考文献やデータを見ながら、教員と学生の割合、教授の論文の数、卒業率、在籍率、卒業生の就職率、施設の充実度、寄付金の金額などを調べ、その指標が自分にとって重要な要素であるかどうかを見極めた上で大学を選びます。さまざまな出版社やリサーチ機関が、独自の指標でラン



キングをつけて発表していますが、「ハーバードの“C”より、アリゾナの“A”」という言葉があるように、大学名より、良い成績を修めることのほうが重要です。あくまでひとつの観点を数字にしたものなので、それを絶対的指標として用いると、大学選択を誤りかねません。あくまでもランキングは参考程度で用いることが大切です。



留学費用について

多額の奨学金・補助金制度が充実

大学生活にかかる費用(授業料、寮費、食費)の総額は、大学により異なりますが、年間20,000～70,000ドル(約220～770万円)といわれ、アメリカ人にとっても悩みの種です。しかし一方で、多額の奨学金・補助金制度も充実しています。

もちろん、留学生もこれらの制度を利用することができますが、全米で4,700を超える大学の中から、奨学金や補助金を最大限に活用して、自分に適した環境の留学先を探すことは簡単にできるとはいえないでしょう。

※当奨学金プログラムを利用することで、返済不要の奨学金(授業料、寮費、食費の50%以上、即ち10,000ドルから35,000ドル以上)の支給を卒業まで受けることが可能です。

上記授業料、寮費、食費以外に必要な留学費用

- ・テキスト代実費(年間約1,000ドル)
- ・その他費用(年間約2,000ドル)
- ・海外旅行傷害保険料(年間約1,000～3,000ドル)
- ・航空券代
- ・お小遣い(月約300～500ドル)
- ・夏休みや冬休み期間中の生活費など

留学生の生活について

卒業するためには徹底した勉強を

アメリカで大学を卒業するのはきわめて難しいといわれています。卒業率の高低は英語力ではなく、「勉強しているか、していないか」に尽きます。勉強をせずに卒業できるほどアメリカの大学は甘くありません。

優秀な成績で卒業していく学生は、毎日朝早くから夜遅くまで、試験の前などは夜を徹して勉強しています。それは、授業に参加するための予習や復習、レポートや宿題作成などの自主勉強です。こうした勉強をしっかり行っていないと授業に参加できなくなります。逆にいえば、一生懸命勉強して授業に参加していれば、試験で何度か失敗したとしても、なんとか卒業までこぎつけられます。

■一週間の時間割りサンプル

	月	火	水	木	金	土	日
AM 7:00	起床&朝食					FREE TIME	FREE TIME
8:00	FREE TIME	数 学	FREE TIME	数 学	FREE TIME		
9:00	経 済 学		経 済 学		経 済 学		
10:00	音 楽	音 楽	経 済 学				
11:00				FREE TIME	FREE TIME	FREE TIME	
PM 12:00	起床&ランチ					FREE TIME	FREE TIME
13:00	昼 食						
14:00	スペイン語	英 語	スペイン語	英 語	スペイン語		
15:00	自主勉強	自主勉強	自主勉強	自主勉強	自主勉強		
16:00	部 活					FREE TIME	自主勉強
17:00	タ 食						
18:00	自主勉強	自主勉強	自主勉強	自主勉強	FREE TIME		
19:00							
20:00							
21:00							
22:00	FREE TIME					FREE TIME	自主勉強
23:00							
00:00	FREE TIME						

- ・ほとんどの科目は、週に2～3回、1回60～120分で行われる。
- ・通常、週に3時間授業が行われるクラスでは3単位、週に5時間授業が行われるクラスでは5単位取得できる。
- ・留学生の場合、最低12単位、通常は15単位取得するので、週の授業は12～15時間となる。
- ・毎回必ず宿題が出され、予習復習、テスト準備などを含めると少なくとも授業時間の約2～3倍の自主学習が必要。したがって、週に30～40時間の自主学習をする計算になり、平日のほとんどは朝から夜遅くまで勉強することになる。
- ・金曜日の午後と土曜日を自由時間にあて、1週間分まとめて遊んだり、ショッピングに行ったりなど、リラックスして過ごす。

奨学金プログラム(アカデミック)

自分に合った大学が選べ返済不要の奨学金が支給

4,700以上の大学を選び、自分に合った学校を選び、そこから奨学金をもらう。

これは、留学生にとって容易にできることではありません。

そこで強い味方となるのが「アメリカ大学奨学金プログラム」です。

米国大学スカラシップ協会がネットワークを活かして、

一人ひとりの予算や希望に合った大学が見つかるようサポートします。

ここでは、そんなプログラムについて詳しくご紹介しましょう。

プログラムの特長

留学生にうれしい2つのメリット

1) 返済不要の奨学金を支給

「アメリカ大学奨学金プログラム」の特長は、なんといっても返済不要の奨学金が支給されることです。授業料、寮費、食費の総額50%以上が支給され、卒業後の返済義務もない。これは留学生にとって大きな魅力といえるでしょう。しかも、入学時の年齢が18歳以上25歳以下であり、学校での成績が5段階評価の3.0以上であれば、学校を問わず、誰でもこのプログラムに申し込むことができます。

では、なぜ「アメリカ大学奨学金プログラム」は、留学生に奨学金を支給するのか？そもそも奨学金の財源は、大学OBや地元の篤志家からの寄付金などです。この貴重なお金をあえて留学生に支給する最大の目的は、「キャンパスの国際化」にあります。世界のいろいろな国からの留学生がキャンパスで地元の学生達と一緒に学び生活することは、地元の学生達にとっても有意義な体験となります。つまり、留学生と交流することで、地元の学生達は国際感覚を身につけ、文化や価値観の違いを体験することができるのです。それゆえ、奨学金を支給してでも海外から留学生を確保しようと考えている大学が多く、このプログラムが成り立っているのです。

留学に必要な英語力

TOEFL/IELTSのスコア提出が必須条件

1) 要求されるスコアの目安

アメリカの大学に出願するときにはTOEFLもしくはIELTSという英語試験のスコア提出が求められます。大学によって要求するスコアは異なりますが、ESL※が充実していない大学では、TOEFL iBT 80、IELTS 6.5を条件づけることが多いようです。豪州、カナダ、英国でも同等のスコアを要求していることを考えると、海外の大学で学ぶために必要なスコアの基準として考えてよいでしょう。

これまで「アメリカ大学奨学金プログラム」に申し込んだ学生の約7割は、過去にTOEFLやIELTSの試験を受験したことがありませんでした。しかし、1年後には大半の方が希望する大学が要求するスコアを取得し、入学を実現しています。スコアが取得できなかった場合でも、指定の事前英語研修を修了した方は、アメリカの大学が運営する語学学校から奨学金を受給して留学し、半年～1年後には大学学部課程に入学しています。なお、当プログラムを利用することでアメリカの大学が運営する語学学校へは、費用を半額程度に抑えることができます。(授業料、寮費、食費の合計年間約300万円→130万円程度。)

※ English as a Second Languageの略。英語を母国語とせず、第2外国語として英語を学ぶ人たちのための教育のこと

2) 複数の大学からオファー

「アメリカ大学奨学金プログラム」のもうひとつの特長は、複数の大学から奨学金支給のオファーがあることです。つまり、「選択できる権利」があるということです。何校からオファーがあるかは、申し込む前に受ける個人面接の時におよその見当がつきます。希望する専攻や留学先の環境など、さまざまな条件によって異なりますが、これまでの実績からいうと、5～7校の大学からオファーが来ます。そして、この中から自分の判断で一校を留学先として選ぶのです。

「アメリカ大学奨学金プログラム」には、毎年たくさんのリベラルアーツカレッジが参加しています。教養教育に重点を置いたりリベラルアーツカレッジは、質の高い教育を実施しているにもかかわらず、総合大学に比べて規模が小さいことや海外での知名度が低いという理由から、留学生が少ない傾向にあります。しかしながら、その教育内容や運営方針、学校の雰囲気などを聞けば、留学生に適したすばらしい大学が多数あることが理解できるでしょう。このプログラムを利用する場合、日本人の少ないリベラルアーツカレッジに留学する確率が高いことをご認識ください。



2) 事前英語研修について

「アメリカ大学奨学金プログラム」は、「キャンパスの国際化」を目的としたプログラムです。それゆえ、留学生は地元へ溶け込み、地元の学生達と一緒にしっかりと勉強しなければなりません。したがって、日本を出発するまでの間にできるだけ勉強をして、英語力を伸ばすことが必要になります。その手助けとなるのが、事前英語研修です。

事前英語研修とは、大学付属の英語教育機関で学ぶ約4カ月分の内容(約400時間分)を自宅で学べるようにつくられたオンライン学習です。インターネットを使って行われるため、効率よく自分のペースで学習ができる上、学習状況が管理されることで勉強の習慣づけにもなります。もちろん、TOEFLのスコアを効果的に伸ばすために、短期間でリスニング、リーディング、グラマー、ライティングのスキルを向上させる工夫がなされているため、英語力も飛躍的にアップします。

事前英語研修を利用するメリットは、英語力の向上だけでなく、留学総費用の削減にもつながります。大学付属の英語教育機関を利用すると、授業料の他にホームステイや学生寮の費用もかき、4カ月で約100～130万円もかかります。日本にいる間にできる限り英語力をつけることで、留学総費用の削減はもちろんのこと、卒業の時期を早めることも可能になります。



プログラムの申し込みについて

申し込みから出国までトータルケア

STEP 1

説明会へ参加

アメリカの大学制度を理解していただくために、説明会(無料)への参加が義務づけられています。詳しい資料が配付され、参加できない場合は申し込みできません。説明会は主要都市で開催されますが、現地に行けない場合はオンラインや電話での参加も可能です。事前にインターネットまたは電話でご予約の上、ご参加ください。ご本人以外の代理参加(家族、友人など)や保護者の方の同伴も歓迎します。



STEP 2

個別面談

説明会に出席された方(代理出席でも可)のみ、無料の個別面談(オンラインや電話でも可)を受けられます。この面談で奨学金プログラムを得られるかどうかの可能性を判定します。ただし、奨学金の最終的な審査と決定は、アメリカの大学が行います。

STEP 3

申込書と申込金

提出期限までに、申込書と申込金を提出してください。詳しい提出時期や申込金額に関しては、説明会で配布する資料をご参照ください。

STEP 4

出願書類とプログラム費用

提出期限までに、出願書類一式とプログラム費用を提出してください。詳しい提出時期やプログラム費用に関しては、説明会で配布する資料をご参照ください。

STEP 5

奨学金オファーから大学を選ぶ

複数(平均7校の大学)の奨学金オファーが来ます。その中から進学先を選択します。万が一オファーがない場合は、出願手続き料とプログラム費用は無条件で全額返却されます。大学が求める英語力に足りない場合は、渡米前に事前英語研修受講の義務があります。(事前英語研修費は別途必要です。)

STEP 6

入学許可証受け取り、ビザ申請

米国大使館の面接を受けて、学生ビザを入手します。渡米のタイミングは8月、もしくは1月です。渡米前に日本でオリエンテーションを行います。

奨学金プログラムの仕組み



※奨学金を支給する大学リスト(オファーリスト)の中からご自身の希望に合う大学を選択して、進学先を決定。

※実際の英語力は大学を決定するまでに取得しておく必要があります。

奨学金プログラム(スポーツ)

スポーツで奨学金をもらおう！

【アメリカ大学スポーツ奨学金留学プログラム】

アメリカ大学スポーツ奨学金留学プログラムとは

このプログラムは、スポーツ奨学生として、日本人学生が米国の大学から奨学金を受け取り、米国の大学に在籍し、スポーツ能力の更なる向上を目指すことを推進するプログラムです。プログラムでは、スポーツ選手に奨学金を提供する米国内の大学を集める一方、奨学金を受けながら米国大学への留学を希望する学生と、奨学金を提供する米国大学を結び付けます。

第一次書類審査に合格した学生は、米国フロリダ州で年1回毎年7月に実施される留学生のための合同トライアウト・実技選考会(ショーケース)に参加することが必要です。ショーケースには、例年、300名前後のスポーツ留学希望者と約100大学の各スポーツクラブ指導者や審査担当者が参加し、参加者のレベルや学校の目的に応じて奨学生の受け入れを、その場で決定します。参加者には、どの大学が興味を持ったかの通知が、通常数週間で手元に届くことになります。ショーケース参加中、学生は、アメリカの文化を知ることのみならず、世界中から集まる同年代の学生とともに、スポーツをしながら国際交流を行うことが可能です。

参加リーグはNCAA、NAIA、NJCAA等です。スポーツ奨学生として大学に入学が決定した場合、スポーツをしながら学位取得を目的とした授業を受けることができます。語学力が足りない場合は、大学付属の英語コース等で英語を学ぶことを条件に入学が認められることがありますが、語学コースの学生は、練習や

対外試合などに参加できません。

プログラムの運営組織は、1997年から今日まで、南米や欧州を中心に毎年300名前後の学生を、スポーツ奨学生として米国大学へ留学させています。その豊富な経験と実績により、日本から米国の大学へ、奨学金を受けながら留学を希望する学生を入学までサポートしてまいります。

このプログラムは、必ずしも日本の高校、大学で高い学力や英語力を持っている学生に限って奨学金を与えるプログラムではありません。また、セミプロ並みのレベルにあるスポーツ選手だけを対象とするものでもありません。米国の大学がスポーツ奨学生として受け入れる基準は様々です。そのため、このプログラムに興味のある方は、現在の英語力、学力やスポーツでの実績を問わずに応募することができます。

本件で取扱う奨学金は、年間の授業料、滞在費、食費の50%～100%を支給するものです。過去の実績としては、年間の授業料、滞在費、食費全額を100%支給、または授業料全額を100%支給する奨学金を得られた学生は、参加者全体の10～15%となっています。また、在学中は毎年、チームに継続して所属し貢献している限り継続的に奨学金を支給されます。そのため、米国の大学へ留学を希望する学生にとって、たいへん大きな経済的支援となります。

募集競技種目とレベル



男子	女子
サッカー テニス ゴルフ バスケットボール	サッカー テニス ゴルフ バスケットボール
サッカー ▶▶▶▶▶▶▶▶ 平均レベル	
テニス ▶▶▶▶▶▶▶▶ 平均レベル	
ゴルフ ▶▶▶▶▶▶▶▶ 平均レベル以上	
バスケットボール ▶▶▶▶ 上級レベル	

応募資格

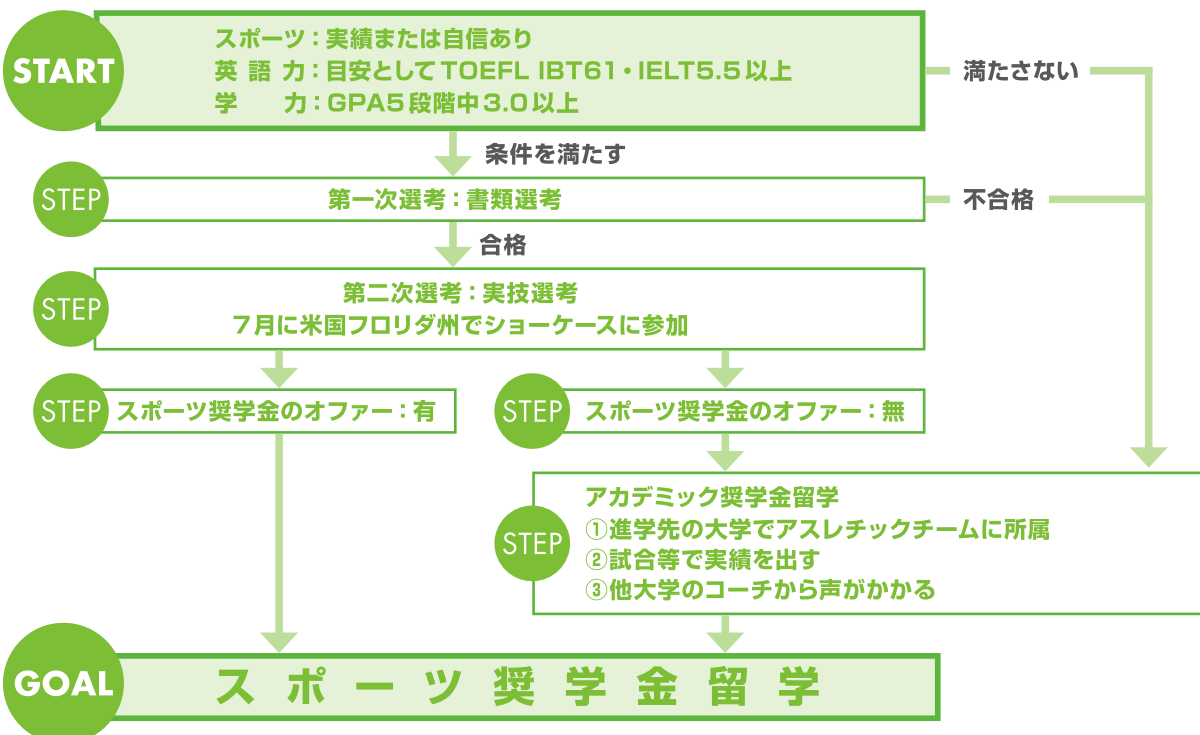
- ・入学時の年齢が18歳以上25歳以下の健康な男女
- ・7月上旬頃に米国フロリダ州で開催されるショーケース(約2週間)に参加可能な方
- ・TOEFL iBT79点またはIELTS6.5を取得済み
または進学先大学への出願時まで取得する方、
または事前英語研修を修了済みまたは渡航までに修了する方
- ・高校あるいは大学での評定平均GPAが
5段階中3.0以上ある方(成績については要相談)

参加費用

申込金：33,000円(税込) 出願手続き費用：77,000円(税込)
ショーケース参加費用(アメリカトライアウトプログラム費用)：616,500円 海外送金手数料：7,000円
事前英語研修(TOEFL iBT79点またはIELTS6.5以上の方は免除)：407,000円～418,000円(税込)



スポーツ奨学金留学申し込み後の流れ



スポーツ留学の基礎知識

アメリカの大学には様々なレベルのスポーツリーグがあります。同じスポーツでも複数のチームを持ち、異文化交流に興味を持っている大学も多くあります。万一、応募者の希望するスポーツのクラブから奨学金の機会が得られない場合でも、大学のアカデミック奨学金の枠から支給されるケースが一般的ですので、奨学金のチャンスはどなたにでもあります。

プロのアスリートとして契約した経験のある方は、大学アスレチックプログラムを運営しているNCAAなどの団体の取り決めにより、一部大学のアスレチックチームへの参加を制限・禁止されることがあります。

アメリカの大学アスレチックでは、参加リーグによりますが、基本的に各学生は最多で4シーズン(4年間)までプレーすることが許可されています。例えば、日本の大学ですでに2シーズンプレーした選手は、アメリカの大学でプレーできるのは残り2シーズンのみとなります。

日本の大学スポーツでは年間を通してチームで練習し試合をすることが通常ですが、アメリカの大学アスレチックでは、チームとして活動しているのは基本的に1年のうち1シーズン(約4ヶ月)のみとなります。シーズン中以外は学業に専念し、時間を見つけて自主練習をする期間となります。

多くの大学は、出願時にTOEFLまたはIELTS、そしてSATのスコアが必要になります。必要なスコアは大学により異なります。スポーツ能力が高くても既定のスコアが取れなければ入学できません。

アメリカの大学は文武両道を基本としています。スポーツをしながら、成績を落としてしまつては、本末転倒ですので、スポーツをする学生は、一定の成績を保つ必要があります。成績の基準を下回ると練習への参加および対外試合への出場停止など厳しい処置がとられます。



どんな大学で学べるのだろう？

■奨学金支給大学の専攻例

オファ어가最も多い専攻

アート (Art)	マネジメント (Management)
会計学 (Accounting)	数学 (Mathematics)
生物学 (Biology)	音楽 (Music)
経営学 (Business Administration)	体育 (Physical Education)
化学 (Chemistry)	心理学 (Psychology)
英語 (English)	社会学 (Sociology)
歴史学 (History)	シアター (Theatre)

オファ어가多い専攻

コミュニケーション (Communication)	健康学 (Health Science)
コンピュータ情報システム (Computer Information System)	学際学 (Interdisciplinary Studies)
コンピュータサイエンス (Computer Science)	国際ビジネス (International Business)
クリミナルジャスティス (Criminal Justice)	マネジメント情報システム (Management Information Systems)
幼児教育 (Early Childhood Education)	マーケティング (Marketing)
経済学 (Economics)	ソーシャルワーク (Social Work)
初等教育 (Elementary Education)	スペイン語 (Spanish)
環境学 (Environmental Science)	スポーツマネジメント (Sports Management)
運動学 (Exercise Science/Kinesiology)	宗教学 (Theology/Religious Studies)
国際学 (Global/International Studies)	

いくつかのオファ어가来る専攻

農業ビジネス (Agricultural Business)	情報システム (Information Systems)
農業学 (Agriculture)	情報テクノロジー (Information Technology)
人類学 (Anthropology)	国際関係学 (International Relations)
アスレチックトレーニング (Athletic Training)	グラフィックデザイン (Graphic Design)
コミュニケーションアート (Communication Arts)	ジャーナリズム (Journalism)
コンピュータ工学 (Computer Engineering)	教養学 (Liberal/General/University Studies)
クリエイティブライティング (Creative Writing)	マスコミュニケーション (Mass Communication)
ダンス (Dance)	公衆衛生学 (Public Health)
デジタルメディア (Digital Media)	公共政策学 (Public Policy)
教育学 (Educational Studies)	PR 学 (Public Relations)
電子工学 (Electrical Engineering)	地域学 (Regional Studies)
工学 (Engineering)	宗教学 (Religious Studies)
ファイナンス (Finance)	社会科学 (Social Science)
法医学 (Forensic Science)	ソーシャルスタディ (Social Studies)
フランス語 (French)	スポーツ&レクリエーション学 (Sport & Recreational Studies)
地理学 (Geography)	統計学 (Statistics)
ドイツ語 (German)	サステナブルビジネス (Sustainable Business)
老年学 (Gerontology)	女性学・ジェンダー学 (Women's/Gender Studies)
ホスピタリティ&ツーリズムマネジメント (Hospitality & Tourism Management)	

オファ어가ほとんど来ない専攻

航空工学 (Aerospace Engineering)	家族学 (Family Studies)
天文学 (Astronomy)	図書館学 (Library Science)
航空学 (Aviation)	言語学 (Linguistics)
料理アート (Culinary Arts)	ファッションマーチャンダイジング (Fashion Merchandising)
映画学 (Film Studies)	栄養学 (Nutrition Studies)
演技 (Acting)	物理学 (Physics)

※上記情報はこれまで留学された方の実績から収集した一般的な情報であり、実際の奨学金支給大学リストに載ってくる大学は、プログラムに出願する各個人の提出書類の内容や出願時期等により異なります。

※奨学金プログラムに申込をされた方は、専攻を第四希望まで選ぶことができます。多くの大学が持っている専攻を希望する専攻の中にも含めることが、奨学金支給大学を増やす鍵となります。



過去の実績大学例一覧

	大学名	州	大学種類	学生人数
1	オーバーク大学モンゴメリー校 http://www.aum.edu/	アラバマ州	州立	4,252
2	スプリングヒルカレッジ http://www.shc.edu/	アラバマ州	私立	1,202
3	モンテパロ大学 http://www.montevallo.edu/	アラバマ州	州立	2,598
4	ライオンカレッジ https://www.lyon.edu/	アーカンソー州	私立	600
5	アライアント国際大学マネジメントスクール http://www.alliant.edu/asm/	カリフォルニア州	私立	683
6	セントラルコネチカット州立大学 http://www.ccsu.edu/	コネチカット州	州立	9,942
7	フラグラーカレッジ http://www.flagler.edu/	フロリダ州	私立	2,847
8	ウェバー国際大学 http://www.webber.edu/	フロリダ州	私立	661
9	コロンバス州立大学 http://www.columbusstate.edu/	ジョージア州	州立	7,025
10	ショーター大学 http://su.shorter.edu/	ジョージア州	私立	1,554
11	カレッジオブアイダホ http://www.collegeofidaho.edu/	アイダホ州	私立	1,042
12	イリノイ工科大学 http://web.iit.edu/	イリノイ州	私立	2,800
13	ルイス大学 http://www.lewisu.edu/	イリノイ州	私立	4,579
14	ノースセントラルカレッジ http://northcentralcollege.edu/home	イリノイ州	私立	2,755
15	イリノイ大学アーバナシャンペーン http://illinois.edu/	イリノイ州	州立	44,520
16	インディアナ大学サウスウェスト校 http://www.ius.edu/	インディアナ州	州立	6,203
17	マリアン大学 http://www.marian.edu/	インディアナ州	私立	2,204
18	ヴァルパレーゾ大学 http://www.valpo.edu/	インディアナ州	私立	2,980
19	アイオワウェスレヤン大学 http://www.iw.edu/	アイオワ州	私立	741
20	ニューマン大学 http://newmanu.edu/	カンザス州	私立	2,384
21	オタワ大学 http://www.ottawa.edu/	カンザス州	私立	630
22	キャンベルズビル大学 http://www.campbellsville.edu/	ケンタッキー州	私立	3,132
23	ジョージタウンカレッジ http://www.georgetowncollege.edu/	ケンタッキー州	私立	1,116
24	ルイビル大学 http://louisville.edu/	ケンタッキー州	州立	15,727
25	カンバーランド大学 http://www.ucumberland.edu/	ケンタッキー州	私立	1,864
26	マクニース州立大学 https://www.mcneese.edu/	ルイジアナ州	州立	7,711
27	メイン大学 http://umaine.edu/	メイン州	州立	8,778
28	ウェスタンニューイングランド大学 https://www.wne.edu/	マサチューセッツ州	私立	2,695
29	アキナスカレッジ http://www.aquinas.edu/	ミシガン州	私立	1,922
30	スプリングアーバー大学 http://www.arbor.edu/	ミシガン州	私立	3,058
31	ミネソタ州立大学ムーアヘッド校 http://www.mnstate.edu/	ミネソタ州	州立	6,426
32	セントトーマス大学 http://www.stthomas.edu/	ミネソタ州	私立	6,350
33	ウィノナ州立大学 http://umaine.edu/	ミネソタ州	州立	8,405
34	南ミシシッピ大学 http://www.usm.edu/	ミシシッピ州	州立	15,000
35	ウィリアムキャリー大学 http://www.wmcarey.edu/	ミシシッピ州	私立	2,327
36	コロンビアカレッジ http://www.ccis.edu/	ミズーリ州	私立	16,940
37	ハンニバルラグレング大学 http://www.hlg.edu/	ミズーリ州	私立	1,215

	大学名	州	大学種類	学生人数
38	ミズーリバプティスト大学 https://www.mobap.edu/	ミズーリ州	私立	3,850
39	ミズーリバレーカレッジ http://www.moval.edu/	ミズーリ州	私立	1,789
40	モンタナ州立大学 http://www.montana.edu/	モンタナ州	州立	12,772
41	ロッキーマウンテンカレッジ https://www.rocky.edu/	モンタナ州	私立	1,007
42	シャドロン州立カレッジ http://www.csc.edu/	ネブラスカ州	州立	3,000
43	ミッドランド大学 https://www.midlandu.edu/	ネブラスカ州	私立	1,097
44	サザンニューハンプシャー大学 http://www.snhu.edu/	ニューハンプシャー州	私立	11,253
45	フェリシアンカレッジ http://www.felician.edu/	ニュージャージー州	私立	1,775
46	サウスウェスト大学 https://www.usw.edu/	ニューメキシコ州	私立	335
47	ホバートアンドウィリアムスミスカレッジ http://www.hws.edu/	ニューヨーク州	私立	2,292
48	レノアライン大学 http://www.lr.edu/	ノースカロライナ州	私立	1,544
49	ノースカロライナウェスレヤンカレッジ http://www.ncwc.edu/	ノースカロライナ州	私立	1,522
50	ディキンソン州立大学 http://www.dickinsonstate.edu/	ノースダコタ州	州立	2,572
51	ノースダコタ州立大学 http://www.ndsu.edu/	ノースダコタ州	州立	12,332
52	フィンドレー大学 http://www.findlay.edu/	オハイオ州	私立	3,898
53	アクロン大学 http://www.uakron.edu/	オハイオ州	州立	22,122
54	オクラホマシティ大学 http://www.okcu.edu/	オクラホマ州	私立	2,075
55	エリザベスタウンカレッジ http://www.ETown.edu/	ペンシルバニア州	私立	1,885
56	セントフランシス大学 http://francis.edu/	ペンシルバニア州	私立	1,772
57	ランダー大学 http://www.lander.edu/	サウスカロライナ州	州立	3,000
58	ライムストーンカレッジ http://www.limestone.edu/	サウスカロライナ州	私立	902
59	ブラックヒルズ州立大学 http://www.bhsu.edu/	サウスダコタ州	州立	4,722
60	スーフォールズ大学 http://www.usiouxfalls.edu/	サウスダコタ州	私立	1,194
61	プレゼンテーションカレッジ http://www.presentation.edu/	サウスダコタ州	私立	800
62	カンバーランド大学 http://www.cumberland.edu/	テネシー州	私立	1,500
63	キング大学 http://www.king.edu/	テネシー州	私立	1,963
64	メンフィス大学 http://www.memphis.edu/	テネシー州	州立	17,647
65	リンカーンメモリアル大学 http://www.lmunet.edu/	テネシー州	私立	1,851
66	メリービルカレッジ http://www.maryvillecollege.edu/	テネシー州	私立	1,093
67	アビリーンクリスチャン大学 http://www.acu.edu/	テキサス州	私立	3,626
68	インカーネイトワード大学 http://www.uiv.edu/	テキサス州	私立	6,404
69	リバティ大学 http://www.liberty.edu/	バージニア州	私立	46,133
70	サザンバージニア大学 http://svu.edu/	バージニア州	私立	729
71	ローレンス大学 http://www.lawrence.edu/	ウィスコンシン州	私立	1,525
72	ウィスコンシン大学オークレア校 http://www.uwec.edu/	ウィスコンシン州	州立	10,499
73	キャロル大学 http://www.carrollu.edu/	ウィスコンシン州	私立	3,500
74	ワイオミング大学 http://www.uwyo.edu/	ワイオミング州	州立	10,194



American Collegiate Scholarship Association

米国大学スカラーシップ協会

<http://www.scholarship.jp>